

第5節 国内外におけるICT機器・端末関連の動向

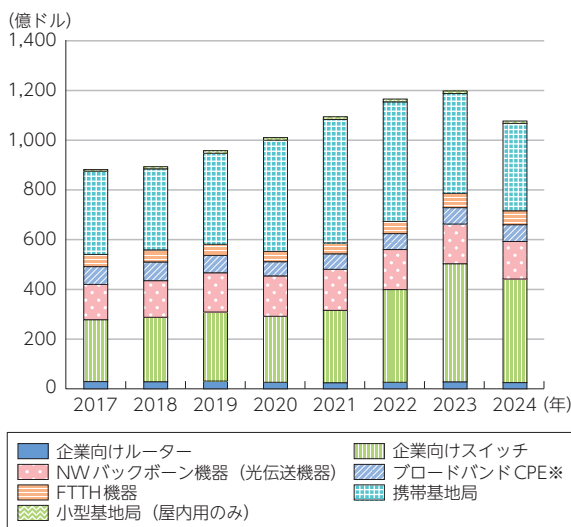
1 国内外のICT機器市場の動向

1 市場規模

世界のネットワーク機器の出荷額は、2017年以降増加傾向にあるが、2024年は1,077億ドル（前年比10.1%減）となった（図表Ⅱ-1-5-1）。内訳をみると、携帯基地局と企業向けスイッチが中心となっている。

日本のネットワーク機器の生産額は、2000年代前半から減少傾向で推移していたが、2018年以降は緩やかに増加した。その後、2021年に再び減少に転じたが、2024年は増加して6,616億円となった（図表Ⅱ-1-5-2）。内訳をみると、固定電話から携帯電話・IP電話への移行に伴って電話応用装置^{*1}、交換機などが減少しており、現在は無線応用装置^{*2}、搬送装置^{*3}及びその他の無線通信機器^{*4}の規模が大きい。また、基地局通信装置は増減の波が大きく、4G向けの投資が一巡した2016年以降は低迷が続いていたが、2020年から増加に転じた後に2022年以降は減少が続いている。IP通信に使用されるネットワーク接続機器^{*5}は2019年から増加に転じたが、2021年から2022年は減少した。その後、2023年でいったん増加したが2024年は減少した。

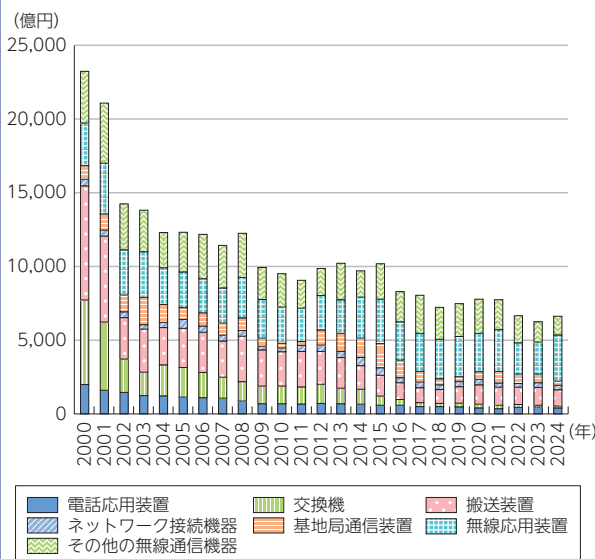
図表Ⅱ-1-5-1 世界のネットワーク機器出荷額の推移



※ xDSL (ADSL、VDSL、G.fast等) 及びケーブルネットワークによりブロードバンド通信を行うための、顧客向け設備。

(出典) Omdia

図表Ⅱ-1-5-2 日本のネットワーク機器生産額の推移



(出典) 経済産業省「生産動態統計調査機械統計編」^{*6}

2 機器別の市場動向

ア 5G基地局

2024年の世界の5G基地局（マクロセル）の市場規模（出荷額）は249億ドル（前年比15.2%減）となり、日本では17億ドル（前年比25.7%減）となった（図表Ⅱ-1-5-3）。両市場ともにピークアウトが見られるものの、引き続き高水準を維持するものとみられる。また、2024年の世界の5G基地局（マクロセル）のシェア（出荷額）は、首位がHuawei（31.0%）、2位がEricsson（26.6%）、3位が

*1 ボタン電話装置、インターホン。

*2 船舶用・航空用レーダー、無線位置測定装置、テレメータ・テレコントロールなど。

*3 デジタル伝送装置、電力線搬送装置、CATV搬送装置、光伝送装置など。

*4 衛星系・地上系固定通信装置、船舶用・航空機用通信装置、トランシーバなど。

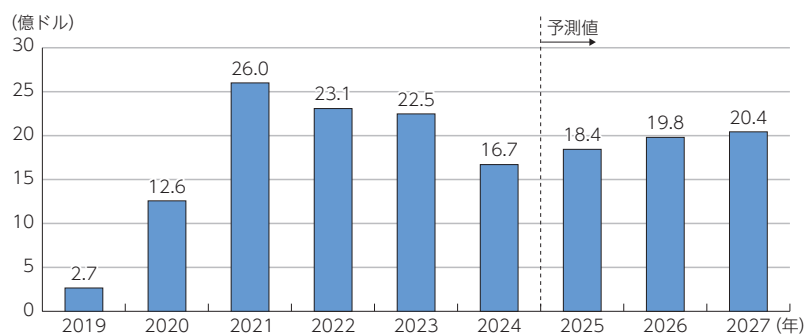
*5 ルーター、ハブ、ゲートウェイなど。

*6 <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/seidou/index.html>

Nokia (18.1%) であった。このように、5G 基地局（マクロセル）の市場（出荷額）では、海外の主要企業が高いシェアを占め、日本企業の国際競争力は低い状況にある。

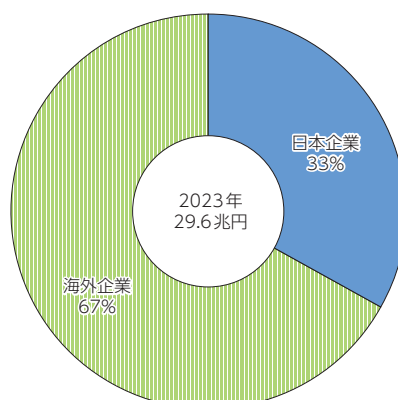
他方で、日本企業は、携帯基地局やスマートフォンなどに組み込まれている電子部品市場（売上高）では、2023年時点で世界の33%のシェアを占めると見込まれており、Beyond 5Gに向けた潜在的な競争力は有していると考えられる（図表Ⅱ-1-5-4）。

図表Ⅱ-1-5-3 日本の5G基地局（マクロセル）の市場規模（出荷額）



（出典）Omdia

図表Ⅱ-1-5-4 世界の電子部品市場（売上高）のシェア（2023年）



（出典）Omdia

関連データ 世界の5G基地局（マクロセル）の市場規模（出荷額）

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00196>（データ集）



関連データ 世界の5G基地局（マクロセル）のシェア（出荷額）

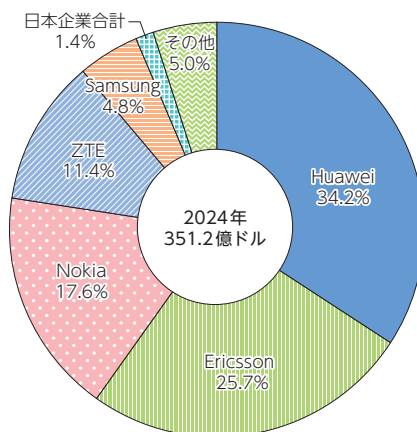
URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00197>（データ集）



イ マクロセル基地局（5G含む）

2024年の世界市場の出荷金額ベースのシェアは、首位がHuawei (34.2%)、2位がEricsson (25.7%)、3位がNokia (17.6%) となっており、日本企業は合計で1.4%を占めている（図表Ⅱ-1-5-5）。

図表Ⅱ-1-5-5 世界のマクロセル基地局市場のシェア（2024年・出荷額）



(出典) Omdia

ウ 企業向けルーター

2024年の世界市場の出荷金額ベースのシェアは、首位がCisco（62.6%）、2位がH3C（10.2%）、3位がHuawei（8.7%）となっている。

2024年の日本市場の出荷金額ベースのシェアは、首位がCisco（35.0%）、2位がNEC（27.5%）、3位がYamaha（23.5%）となっている。

関連データ 世界の企業向けルーター市場のシェア

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00199> (データ集)



関連データ 日本の企業向けルーター市場のシェア

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00200> (データ集)



2 国内外の ICT 端末市場の動向

1 市場規模

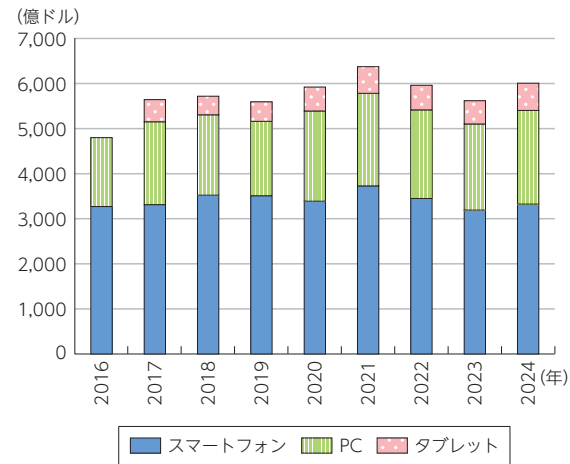
世界の情報端末の出荷額は、2024年は6,007億ドル（前年比6.9%増）となった（図表Ⅱ-1-5-6）。内訳をみると、スマートフォンとPCが中心となっている。

日本の情報端末の生産額は、2000年代に比べると大きく減少している。2020年以降は1兆円前後で横ばいの推移となっており、2024年は1兆920億円であった（図表Ⅱ-1-5-7）。内訳をみると、携帯電話・PHS^{*7}が2010年代中盤までは大きかったが、その後縮小し、現在はデスクトップ型PC、ノート型PC、情報端末^{*8}が中心となっている。

^{*7} 2019年以降は、携帯電話・PHSの生産額は非公表となったため、無線通信機器（衛星通信装置を含む）から放送装置、固定通信装置（衛星・地上系）、その他の陸上移動通信装置、海上・航空移動通信装置、基地局通信装置、その他の無線通信装置、無線応用装置を引いた値を使用している。また、2022年から無線通信機器（衛星通信装置を含む。）の生産額が非公表となったためゼロとなっている。

^{*8} 外部記憶装置、プリンタ、モニターなど。情報キオスク端末装置は非公表の年があるため、それを除いた値を使用。

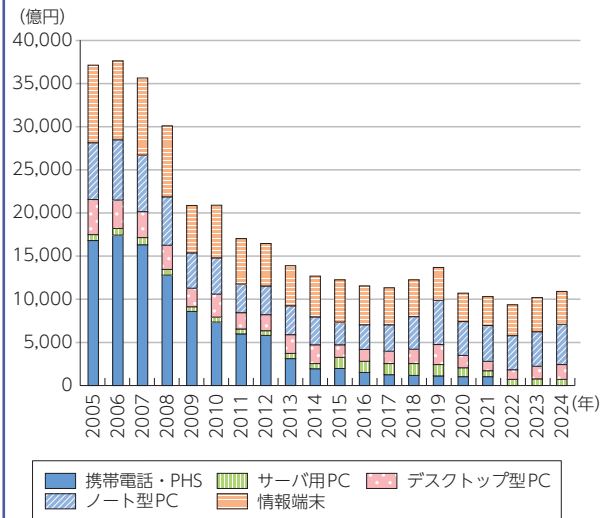
図表Ⅱ-1-5-6 世界の情報端末出荷額の推移



※ タブレットは2017年から集計

(出典) Omdia

図表Ⅱ-1-5-7 日本の情報端末生産額の推移



(出典) 経済産業省「生産動態統計調査機械統計編」*9

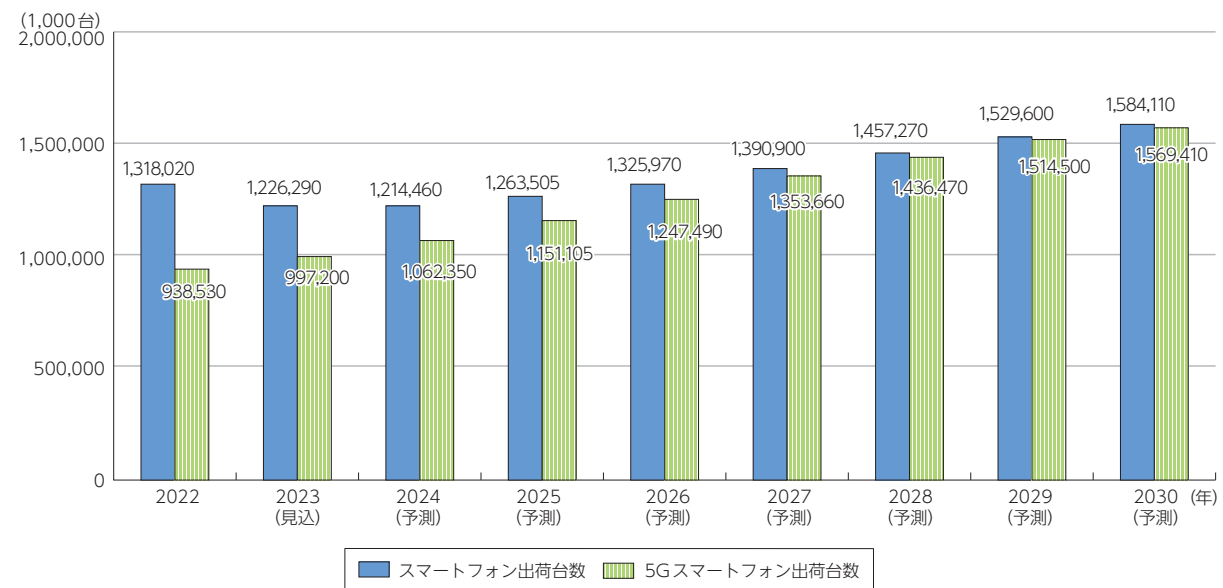
2 端末別の市場動向

ア スマートフォン (5G対応)

世界の5G対応スマートフォンの出荷台数は、2022年は9億3,853万台であり、スマートフォン全体（13億1,802万台）の71%を占めている。5G対応スマートフォンの出荷台数は今後も拡大することが見込まれ、2030年には15億6,941万台まで拡大すると予測されている（図表Ⅱ-1-5-8）。

5G対応スマートフォンの国内出荷台数は2023年度で2,505万台（前年度比12.4%減）となった（図表Ⅱ-1-5-9）。

図表Ⅱ-1-5-8 世界のスマートフォン・5Gスマートフォンの出荷台数推移と予測



※1 メーカー出荷台数ベース

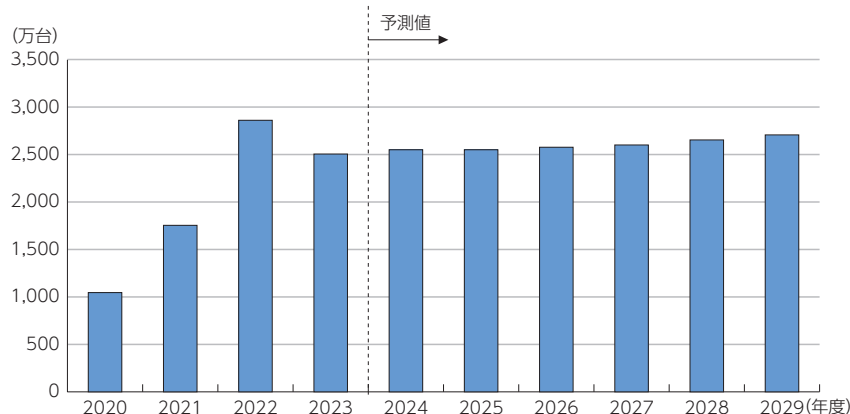
※2 5Gスマートフォン出荷台数はスマートフォン世界出荷台数の内数

※3 2023年は見込値、2024年以降は予測値

(出典) 株式会社矢野経済研究所「世界の携帯電話契約サービス数・スマートフォン出荷台数調査（2023年）」（2024年3月27日発表）

*9 <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/seidou/index.html>

図表Ⅱ-1-5-9 日本の5G対応スマートフォンの出荷台数

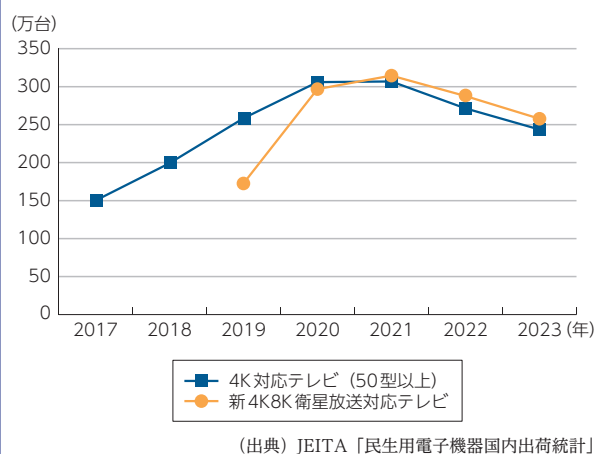


(出典) CIAJ「通信機器中期需要予測 [2024年度～2029年度]」

イ 4K・8Kテレビ

国内の4K対応テレビ（50型以上）の2023年の出荷台数は243万台（前年比10.3%減）、新4K8K衛星放送対応テレビの2023年の出荷台数は257万台（前年比10.4%減）であり、双方とも出荷台数に落ち着きがみられる（図表Ⅱ-1-5-10）。

図表Ⅱ-1-5-10 日本の4K・8K対応テレビの出荷台数



(出典) JEITA「民生用電子機器国内出荷統計」

ウ VR・AR

世界のVRヘッドセットの出荷台数は、2019年以降増加していたが、2023年以降減少に転じ、2024年は690万台（前年比9.9%減）となっている。

日本におけるXR（「VR（Virtual Reality 仮想現実）」、「AR（Augmented Reality 拡張現実）」、「MR（Mixed Reality 複合現実）」）対応のHMDとスマートグラスの出荷台数は、2022年に38万台だったものが2025年には102万台まで増加すると予測されている。

関連データ 世界のVRヘッドセットの出荷台数の推移及び予測

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00206> (データ集)



関連データ 日本のXR（VR・AR・MR）対応のHMDとスマートグラスの出荷台数予測

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00207> (データ集)



3 各国における ICT 機器・端末の輸出入の動向

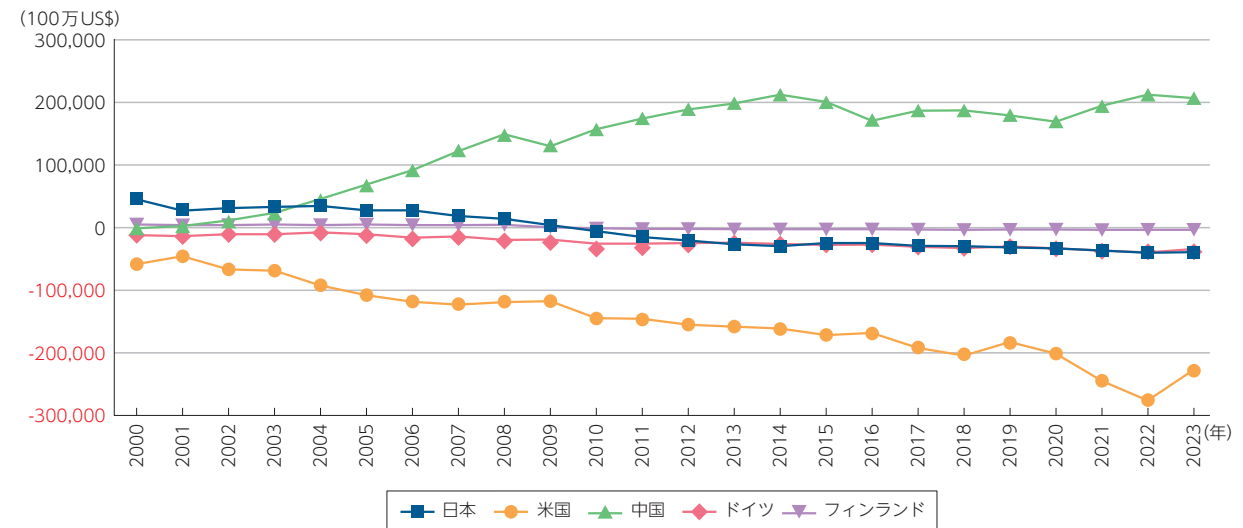
各国における ICT 機器・端末^{*10}の輸出入については、国際連合貿易開発会議（以下「UNCTAD」）「UNCTAD STAT」によると^{*11}、日本では2010年以降輸入超過が続いており、2023年は、輸出額は

*10 電子計算機、通信機、消費者向けの電気機器、電子部品等

*11 集計対象等の違いにより、第Ⅱ部第1章第1節4「ICT分野の輸出入」に記載している財務省「貿易統計」に基づくICT財の輸出額、輸入額、輸出入額とは必ずしも額が一致しないことに留意が必要。

549億ドル（前年比9.9%減）、輸入額は943億ドル（前年比6.9%減）で、394億ドルの輸入超過（前年比2.4%減）となっている。また、2023年には、米国では2,272億ドルの輸入超過（前年比17.7%減）、中国では2,069億ドルの輸出超過（前年比2.6%減）となっている（図表Ⅱ-1-5-11）。

図表Ⅱ-1-5-11 各国のICT機器・端末の輸出超過額の推移



（出典）UNCTAD「UNCTAD STAT」*12

関連データ 各国のICT機器・端末の輸出額の推移

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00209>（データ集）



関連データ 各国のICT機器・端末の輸入額の推移

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00210>（データ集）



4 半導体*13市場の動向

世界の半導体市場（出荷額）は、2024年には906億ドル（前年比4.7%減）となった。内訳をみると、ディスクリート半導体が最も多い。2013年からの伸び率が最も高い画像センサーについては日本企業（ソニーセミコンダクタソリューションズ）が51.1%のシェアを占めている。

日本の半導体市場（出荷額）は、2018年から減少していたものの2021年から増加に転じたが、2023年に再び減少に転じ、2024年には66億ドル（前年比6.5%減）となった。内訳をみると、世界市場と同様に、ディスクリート半導体が最も多い。

関連データ 世界の半導体市場（出荷額）の推移

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00211>（データ集）



関連データ 世界の画像センサー市場のシェア（2024年・出荷額）

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00212>（データ集）



関連データ 日本の半導体市場（出荷額）の推移

URL : <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00213>（データ集）



*12 <https://unctadstat.unctad.org/EN/Index.html>

*13 本項では、デジタルトランスフォーメーション（DX）で導入が進むIoTやAIを実装した電子機器においてキーデバイスとして位置付けられる、画像センサ、MCU、MEMSセンサ及び不可欠な電源に使われるディスクリート半導体を指す。